



NEWS RELEASE

2023年12月11日

2023年の「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」開催に伴う 鹿児島県への経済波及効果について

株式会社 九州経済研究所

当研究所は、2023年の「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」（以下、両大会）の開催に伴う鹿児島県への経済波及効果についての試算をまとめた。

1. 試算結果

（1）産業連関分析による経済波及効果

両大会参加者による観光消費支出額と県及び会場地となった市町村による施設整備費・運営費等の関連投資額を合算した需要発生額（A）を563億円と試算し、「2015年鹿児島県産業連関表」を用いて経済波及効果を算出した。その結果、直接効果^{注1}（B）が541億円、間接効果（C+D）（第1次生産誘発額^{注2}（C）134億円、第2次生産誘発額^{注3}（D）132億円）が265億円、経済波及効果（E）は、806億円と試算され、生産誘発倍率（E/A）は、1.43倍となった。なお、最終的には、直接効果+第1次生産誘発額+第2次生産誘発額を経済波及効果とした。

産業連関分析による経済効果の試算結果

（単位：億円、人）

	生産 誘発額	付加価値 誘発額	雇用者所得 誘発額	就業者 誘発数
需要発生額（A）	563			
直接効果（B）	541	329	189	4,687
第1次生産誘発額（C）	134	76	34	1,044
第2次生産誘発額（D）	132	86	28	987
経済波及効果（E=B+C+D）	806	491	251	6,718
生産誘発倍率（E/A）	1.43倍			

注) 四捨五入により内訳の和と合計が一致しない

注¹ 直接効果：需要発生額に自給率を乗じて、推計した県内における需要額である。

注² 第1次生産誘発額：宿泊費や飲食費、会場建設費などの直接効果の増加によって生み出される生産額の増加分である。

注³ 第2次生産誘発額：第1次生産誘発額が生じた結果、各産業への波及効果により雇用所得が発生する。これに一定の比率を乗じた家計消費からの民間消費需要の増加によって、生み出される生産額の増加分である。

株式会社 九州経済研究所

2. 試算の概要

(1) 両大会参加者による観光消費支出額の推計

両大会参加者（選手・監督、大会関係者、観覧者）による観光消費支出額を以下のように推計した。

① 延べ参加者数の実績

両大会の延べ参加者数は、鹿児島県がまとめた本大会期間中の実績（70万6,480人）に加え、事前のリハーサル大会（6万1,985人）や関連イベント等（5万1,762人）も含め82万227人とした。

② 内訳の推計

延べ参加者の内訳を、大会期間中に実施したアンケート結果などから以下の通り推計した。

参加者の内訳

(単位：人)

	県内		県外		合計
	日帰り	宿泊	日帰り	宿泊	
選手・監督	4,169	8,339	759	144,949	158,216
大会関係者	104,149	27,407	844	43,031	175,431
観覧者	287,935	11,036	14,045	173,564	486,580
合計	396,253	46,782	15,648	361,544	820,227

③ 観光消費支出額の推計

一人当たりの消費支出額単価は「2022年鹿児島県観光統計」の実績と23年7～9月の旅行単価増加率を考慮し推計した。次に一人当たり消費支出額単価に上記②の参加者数を掛け、観光消費支出額の合計を111億円と推計した。

一人当たり消費支出額単価 (単位：円)

県内		県外	
日帰り	宿泊	日帰り	宿泊
3,093	18,609	6,899	24,721

観光消費支出額

(単位：億円)

県内		県外		合計
日帰り	宿泊	日帰り	宿泊	
12	9	1	89	111

(2) 施設整備費、準備・運営費等の推計

実行委員会事務局の資料に基づき県及び会場地となった市町村による施設整備費や準備・運営費等を452億円と推計した。

なお、上記(1)同様、本大会に加え、事前のリハーサル大会や関連イベント等に関する費用も含めている。

施設整備費、準備・運営費等 (単位：億円)

施設整備費	218
準備・運営費	204
競技力向上対策費	29
合計	452

注) 四捨五入により内訳の和と合計が一致しない

(3) 産業連関分析

(1)、(2)で推計した結果より、「2015年 鹿児島県産業連関表」を用いて経済波及効果を算出した。

産業連関分析の結果 (単位：億円)

需要発生額 (A)	563
直接効果 (B)	541
第1次生産誘発額 (C)	134
第2次生産誘発額 (D)	132
経済効果 (E = B + C + D)	806
生産誘発倍率 (E / A)	1.43倍

注) 四捨五入により内訳の和と合計が一致しない

(参考) 2019年推計との比較

(単位：億円)

	今回推計	2019年推計	差
需要発生額 (A=a+b)	563	426	137
観光消費支出額 (a)	111	141	▲30
施設整備費・運営費等 (b)	452	285	167
直接効果 (B)	541	410	131
第1次生産誘発額 (C)	134	124	10
第2次生産誘発額 (D)	132	85	47
経済波及効果 (E=B+C+D)	806	619	187
生産誘発倍率 (E/A)	1.43倍	1.46倍	▲0.03 ポイント

3. さいごに

前述のとおり、両大会開催による鹿児島県への経済波及効果を 806 億円と算出した。両大会は新型コロナウイルスの感染拡大により、当初予定していた時期より 3 年延期しての開催となったものの、延期中に開催された事前のリハーサル大会や関連イベント等が主因となって経済効果を押し上げた。また久々の全国規模の大型イベントが本県で行われ、多数の参加者が集まって大会を盛り上げ、コロナからの回復を強く印象付けた。ただ、宿泊・交通・飲食など観光関連事業者は、人手不足が続く中、急速に戻ってきた需要に供給が追いつかない点が課題となった。今後アフターコロナで高まる国内外の観光需要を最大限取り込むために、両大会で見えた課題にきちんと向き合い、解決策に官民一体で取り組むことが求められる。

以上

【本件に関するお問い合わせ】 株九州経済研究所 (Tel 099-225-7491)